

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103411		
法人名	社会福祉法人 春秋会		
事業所名	リエゾン長崎 グループホームくぬぎ(椽)		
所在地	〒850-0992 長崎県長崎市江川町92番		
自己評価作成日	平成22年 8月 21日	評価結果市町村受理日	平成 22年 10月 6日
事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)			
基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成 22年 9月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢になっても介護が必要になってもその人らしく生活が出来るよう、母体事業所であるケアハウスに併設した施設として平成15年4月に開設しました。入居者様が共同生活において家庭的な環境のもとで「ゆっくりと、いっしょに、たのしく」を理念のもと 一人ひとりのペースを大事にして、その日、その時の思いや訴えをしっかりと受け止め その人の安心した生活を支援しています。又ミニデイサービスと位置づけ併設のデイサービスを週2回利用して体操やりハビリに参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム名である「くぬぎ(椽)」は、雑木林に多い栗団栗の木をイメージして付けられ、母体事業所であるケアハウスに併設されている。2階建ての1階部分はデイサービスになっており週2回、体操やりハビリなどで利用している。入居者が家庭的な環境で生活できるよう「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を理念に掲げ、管理者、職員は介護を最優先、それに伴う日々の記録などの業務は事業所独自の工夫をされ、ケアの為の時間を取るよう努めている。職員が選んだBGMが流れる中、食事も一人ひとりのペースに合わせながら美味しくいただけるような取り組みも行っている。医療面でも、入居者個人個人のかかりつけ医がいるが、24時間対応可能な協力医があり、気軽に相談やアドバイスを頂ける関係を築かれ、安心感が繋がっている。今後も入居者の思いや訴えをしっかりと受け止め、安心した生活支援を期待できるホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
	1. ほぼ全ての利用者の		1. ほぼ全ての家族と
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族の2/3くらいと
	3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
	1. 毎日ある		1. ほぼ毎日のように
	2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度
	3. たまにある		3. たまに
	4. ほとんどない		4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
	1. ほぼ全ての利用者が		1. 大いに増えている
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 少しずつ増えている
	3. 利用者の1/3くらいが		3. あまり増えていない
	4. ほとんどいない		4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての職員が
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 職員の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが		3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが		3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族等が
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族等の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		
	1. ほぼ全ての利用者が		
	2. 利用者の2/3くらいが		
	3. 利用者の1/3くらいが		
	4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の理念を共有し、馴染みの関係が出来るよう日々取り組んでいます。	日々入居者と同じ目線で話し、管理者と職員は「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の理念を共有し、自宅の延長と考え、ゆっくりとした時間を過ごしていただけるように支援に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、法人内のデイサービスリハビリや夏祭りに参加し地域の方との交流が少しでも出来るように勤めています。	地域の商店から食材を注文しているので、買物や散歩の時など、声をかけていただき地域に溶け込んだ存在となっている。法人内の行事なども地域の方も参加され交流ができ、町内会の行事は施設の代表者が参加している。又、介護に関する講師として招かれる事もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの協力をいただきながら、ご家族様等に認知症についてご理解をして頂けるように努めています。又法人で広報誌を発行し情報を発信しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や民生員、地域包括等の方々からの意見を取り入れ、楡としての行事や他事業所との研修会を検討し実施できるように努めています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。家族代表や参加者のいろいろな意見を受け入れサービス向上に努めている。又、参加出来ない家族には、運営推進会議報告書を便りに同封して、把握していただいている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員の受入や地域包括支援センターの方に運営推進会議に参加していただいています。	グループホームとして介護相談員の受け入れをしているが、1年に1回の訪問である。日ごろから疑問や相談は、市の担当者で連絡を取っている。又、地域包括支援センターの方が、会議にも積極的に参加されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、身体拘束についての研修会にて勉強しています。1階デイサービスが休日の時には防犯目的の為、ご家族様にも同意を頂き玄関に施錠させていただきます。	職員全員が「身体拘束をしないケア」に取り組んでいるが、1階がデイサービスである為、休日の時は事業所の方針で玄関に施錠している。身体拘束廃止の為には、代表者、職員の話し合いでの意識付けが望まれる。	施錠を行う事については家族の方に、説明し同意を得ているが、「身体拘束とは何か」という事を、今一度職員間で理解し、玄関の施錠を行わない工夫をされることに期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基き、虐待防止法・ケアの原則の勉強会を行い、職員間で認識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加できるように取り組んでいます。現在必要とされる方はいらしゃいませんが、必要な時は対応していきたいと思えます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご本人様・ご家族様より希望を伺います。事業所として援助できる内容を十分に説明し、理解・納得していただいた上で契約を締結しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様・ご家族様との会話の中や運営推進会議での内容等を反映できるよう心がけています。年に2回程しか来訪できないご家族には、毎月のお便りにて状況をお伝えし電話にて要望等を伺っています。	家族の面会時などに、日常の様子を話ながら事業所に対しての要望や意見を言えるよう心がけている。電話や便りにて伺った要望も運営推進会議の議題として取り上げ、サービスの質の向上や入居者・家族の満足に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングや全体会議にて意見や提案が出来るようにしています。又全体会議で運営に関する方針をその都度説明し、情報の共有を図っています。	全体会議の中でも現場職員の意見や提案が反映され、研修も希望すれば行ける体制ができています。又、日々の細かいところのケアプラン等、職員同士も気づきがあればお互いに情報を提供し、改善に活かされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内外の研修に参加してもらうことで、自己研鑽や向上心を持って働くことが出来るよう職場環境・条件の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修は職員に受講希望を募り、調整を行い協力しています。又他の職員へも報告しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの支援にて他事業所との交流会に参加し見学を行いました。又他事業所にも運営推進会議に参加して頂きました。その中で意見を頂き合同勉強会の開催検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には出来る限りご本人様のお話を良く聴くようにしています。より多くの情報を把握し理解するように努力しています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様のいない所でお話を伺うようにし、ご家族様の不安・要望に沿えるように努力しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のお話を伺い、他のサービスも必要であれば、そのように対応できるように努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員がお互いに協力し合いながら日常生活を送っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に毎月のたよりにてご本人様の状況をお渡しています。又来訪時も状態を説明し体調が良い時は散歩や外出、外泊できるように支援しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に来訪して頂き、ゆっくりと過ごせるように支援しています。	近隣の入居者が多いため、行き付けの商店や、家族の協力を得て、行きたい場所に行く等、継続した関係が保たれるように支援している。ミニデイ(火・金)でパワーリハビリの場所にも顔馴染みの方が来られ楽しまれている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの個性を尊重しながら座席の工夫を行っています。また、居室外での行事を企画し、コミュニケーションが円滑に出来るようさりげないケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後ご家族様からの相談があった時はその都度対応しています。サービス終了時には何かありましたら何時でもご連絡いただけるように声をかけています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に伺っています。ご本人様が言葉で言えない時には、仕草や日頃の会話の中からご本人様の思いを探り支援するように努めています。	入居者の会話の中から希望や思いを察知したり、誕生日等、特別な日には直接希望を聴いている。アルコールを希望する入居者には、ノンアルコールビールを提供してとても喜ばれている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はご本人様に尋ねる事はもちろんの事、入居時にはご家族様にも情報を頂いています。職員同士で情報を共有しケアに役立てています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を良く観察し、毎日の記録に残しています。個々人の変化一人ひとりの早期発見に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、職員で話し合い、現状に沿ったケアが出来るように努めています。	入居者ごとに担当職員はいるが、職員の日々の気づきや意見を介護計画実施表に記録し、全職員で情報の共有を図り、入居者の現状に即した計画の作成に心掛けている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は細かく記載しています。その時の状況で対応の仕方が異なりますが、情報を共有し日々のケアや介護計画作成に役立てています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のデイサービス(ミニデイと位置づけ)にてリハビリを実施し、ご本人様、ご家族様の希望でもあるご自宅に帰宅できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加できるよう情報の把握に努め、入居者様と地域の繋がりができるように支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望により、それぞれかかりつけ医が違います。主治医には日々の情報を提供し良い関係が保てるように努めています。	入居者全員が、以前からのかかりつけ医での受診を継続されて往診もお願いできる。協力医も24時間いつでも連絡がとれる体制で、医師間で情報提供され、適切な医療が受けられる。口腔ケアも週1回歯科衛生士が対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の病院看護師とは、気軽に相談する事ができます。アドバイスを頂くなどして支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には当事業所での情報をお渡し、退院となればすぐに対応できるように病院関係者より情報を頂き、退院後必要な事は指導して頂いています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では医療が継続して必要になれば退去して頂く事になっています。入居時はその事については十分に説明しています。状況に応じ対応できるように取り組んでいます。	契約時に長期の医療行為が必要となった場合、退去となっているが、医療と介護の判断を明確にした上で、現状のもと、本人や家族との話し合いを通して、要望を可能な限り支援できるよう取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が対応できるように急変や事故・災害を想定した、ミーティングや訓練を定期的に行っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が通報・誘導対応ができるように毎月1回火災・災害訓練を交代で実施しています。又、夜間の協力体制の確認も行っています。	毎月1回災害時と火災時を想定し、訓練を交互に行っている。地域の消防団との連携、職員との連絡体制もできている。又、同一法人のケアハウスが隣接され、避難場所への誘導、備蓄や持ち出し品の準備も把握されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より各人のプライバシーや人格を尊重した言葉かけや対応を行い、プライバシー確保ができるように努めています。	自分らしく生活できることを第一に、日々の介護支援や声かけにも工夫し、人格や誇りを傷つけないよう心がけている。確認と見守りの中、トイレ誘導時など雰囲気を大切に、羞恥心やプライバシーの配慮ができています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	待つケア・さりげないケアを心がけご本人様が自己決定できるように支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けを行い、ご希望を伺いながら本人様の状態を確認してご希望に沿うように努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望を、理美容スタッフにお願いしたり、ご家族様の協力にてご本人様希望美容室を利用できるように支援しています。又身だしなみ(お化粧等)ができるように支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にお手伝いができる方には下ごしらえ、下膳や茶わん拭きを手伝って頂いています。又季節の行事として梅ぼし作りや干し柿作り等を一緒に行っています。	入居者の能力に応じて食事の準備や片付けを支援している。法人グループ内の管理栄養士に栄養バランスや献立などにアドバイスを貰い、担当職員と楽しみながら、支度されている。又、味見もお願いするなど取り組んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の状態に合わせて、あら刻み・刻み・トロミそれぞれ違った支援を行っています。水分摂取も工夫しながら確保できるように努めています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂いています。ご自分で行う方にも口腔ケアができたか、不十分な所はないか等、声かけし、必要に応じ職員が仕上げ磨きをしています。必要な方は歯科往診をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、その方の排泄パターンの把握に努め、トイレで排泄できるように努めています。	日々の生活では、入居者全員自立に向け、尿取りパットだけで過ごせるよう排泄パターンを把握するなど、自立支援を行なっている。夜間も室内にはポータブルトイレは措かず、リハビリパンツにパットとし、失敗も少なくトイレで排泄が出来ている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が長くでない方には日頃より多く水分を取って頂けるように配慮し、無理のない程度の運動をして頂いています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせて入浴できるように支援しています。毎日入浴希望の方は入って頂けるように支援しています。	毎日入浴できる体制は出来ているが、基本的には隔日の入浴となっている。風呂嫌いの入居者にもタイミングを図り声かけをしている。季節の菫湯やゆず湯など楽しめる工夫がされ楽しい時間を過ごして頂けるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息を気持ちよくできるように環境を整えています。入居者様によっては寝付けない方が居られますが、その場合は日中の活動等を工夫したり、主治医に相談しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬については主治医や薬剤師からの説明があるので理解しています。状況に変化があれば記録に残し、主治医に報告、相談しています。薬が変わった時は申し送りにて伝達し変化がないか観察に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今出来る事や今好まれている事を把握し、自分の役割をもって頂いたり、生き生きとした生活が送れるように、楽しみや気晴らしの支援に努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの要望に出来るだけ沿うよう、買い物や散歩に出かけて行けるよう支援しています。又外出行事を検討する時には日頃のご本人の要望を考慮して実施しています。	外気に触れることで五感をやしなう為、花の水やりや、本人の生活必需品を買いに行くことで、地域の人と触れ合いをしている。昨年は家族の協力で入居者が全員参加され、ホーム外での忘年会を行うことが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、お金の所持、管理ができる方にはご自分で管理して頂いています。管理できない方については事務所にて預かり、買い物に行きたい時には買い物が出来るように支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より身内の方との連絡希望ある時は電話でお話しができるように支援しています。手紙の送付や必要な時には代読して支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に毎月その月にちなんだカレンダーを入居者様と一緒に協力しながら作成しています。ゆっくり、穏やかになる様なBGMを流しています。	安らげるように木を主に使った調度品や仕切り戸で工夫されている。広々としたテーブルには季節の花が飾られていて、職員が選んだBGMが流れゆっくりとした時間が過ごせる取り組みを行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を配置し、気の合う方同士や個人でも過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使い慣れた馴染みの持ち物を持参して頂いています。必要な物がある時にはご家族様に相談し協力して頂いています。	入居者の馴染みのある使い慣れた家具や装飾品を持ち込まれており、家具の配置も家族と入居者が相談されて決めている。好きな写真も飾られ自宅と変わりなく居心地よく過ごされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な環境のもと、待つケア、さりげないケアを心がけ、気配り、心配りを行い安全かつ自立した生活ができるよう支援しています。		